令和４年度 栃木県立大田原高等学校 学校評価シート

校訓　質素堅実	教育目標	(1) 真剣に学習に取り組み、豊かな創造力と正しい判断力を養う。 (2) 心身を鍛練し、不屈の精神と逞しい実践力を養う。 (3) 自他を敬愛し、感謝の心と奉仕の態度を養う。 (4) 規律と責任を重んじ、協同・連帯の精神を養う。

学校自己評価

学校自己評価の評価実施計画			達成状況と改善策			
本年度の重点目標	具体的方策	方策の評価指標	方策の達成状況	達成度		次年度への課題と改善策
「質素堅実」の具現化	・あらゆる機会をとおして基本的生活習慣を確立させるとともに、規範意識や安全意識を高め、自ら考え責任を持って行動できる判断力を身に付けさせる。	①　問題行動件数、 ②　交通事故件数 ・①0 件 ②0～9 件…A ・①1～4 件②10～15 件…B ・①5 件以上②16 件以上…C	問題行動は 4 件であったが、交通事故は 18 件発生した。繰り返し、生徒指導部長講話や HR 指導などで注意をうながしているが、自転車事故を中心に発生件数が減っていない。	C	B	全体としては落ち着いた生活が送れている。問題行動を起こした生徒も話すとよく理解し素直に反省できる。問題を起こす前に考えられるようにさせたい。交通安全については指導し続けるしかない。
	・感染症対策、安全対策を外部の専門家の意見を参考にしながら、万全にした上で、８５キロ強歩、寒稽古を実施する。	８５キロ強歩、寒稽古を実施し、生徒の満足度を調査 ・80%以上…A ・60%以上…B ・60%未満…C	強歩は、距離短縮や計画の縮小、学年分散での実施とならざるを得なかった。寒稽古も種目数を絞るなど計画を変更した。それでも、多くの生徒が大高ならではの行事に３年ぶりに参加して、苦しさや達成感を味わうことができた。【生徒アンケート：行事満足度 90.9%】	A		２年間の中止と今年度の縮小実施により、通常の実施が３年間できていないため、次年度の完全実施に向けては課題が多い。特に 85 キロ強歩では、早期に準備に着手する必要がある。
「大高教育力」の充実	・主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点から授業および評価の改善を図り、生徒の学習意欲の向上を図る。	授業評価で学習意欲の高い割合 ・90%以上…A ・70%以上…B ・70%未満…C	「やる気が出て充実感もある」「深く考えたり広く考えたりできた」と回答した生徒は約８割で学習に前向きな姿勢が見られる。	B	B	授業研究や授業見学等を継続的に行うことと、評価の場面や方法のさらなる工夫によって生徒の学習改善、教員の指導改善につなげる。
	・面接指導をより充実させることで、進路目標を明確にさせたり、悩みや不安を解消させたりする等、生徒一人ひとりに適した指導を組織的に展開する。	生徒アンケートで面談の満足度が高い生徒の割合 ・80%以上…A ・60%以上…B ・60%未満…C	各学期２回の担任の面談に加え、副担任も時機をみて面談を実施した。３年生はチューターとの面談もあり、生徒は多数の先生との面談の機会を持つことができ、様々な点において参考となる意見や助言を得られた。担任・副担任に加え、養護教諭や教育相談係により細かに生徒を観察したり、職員会議で気になる生徒について情報共有したりするなど、生徒理解に努めている。 【生徒アンケート：面談満足度 98.3%】	A		クラスごとに形態が様々なので、ある程度の雛型を用意すると学校全体で統一した指導ができる。また、チューター制度は進路探究に有効なので、さらに制度の充実を目指す。困難を抱える生徒については、職員が情報を共有するシステムが構築できている。次年度以降も、このように全職員で生徒を育てる意識を共有したい。
SSH 活動の深化	・高大連携を拡充させることで、課題研究プログラムの内容を深化させる。	・高大連携が拡充されプログラムの深化が見られた…A ・プログラムの深化には至らなかったが、高大連携は図れた…B ・高大連携をしなかった…C	課題研究班からテーマにあった大学や地元企業等や他校との連携も拡充された。継続研究を行う班も増えつつある。	B	A	研究内容を発展させるために継続して引き継がれるテーマの開示等や、普及等さらに工夫したい。
	・SSH の各事業について、これまで以上に全校体制での取組みを進め、Ⅰ期目の活動を総括するとともに、Ⅱ期目の申請に向けた準備を始める。	・全校体制が確立し、ここまでの成果をもとにⅡ期目申請の準備が進んだ…A ・各取組みに課題はあるが、課題をもとにⅡ期目申請の準備は進んだ…B ・Ⅰ期目の活動の総括が十分にできなかった…C	教員の 9 割が SSH 事業を前向きにとらえ実践している。Ⅱ期目申請については、まず中間評価や前年までの３年間の反省をふまえ、各プログラムにおいて改善がなされた。	A		Ⅱ期目申請に向け、やるべきことを総括し、本年度始めたことをさらに拡充深化させ、Ⅱ期目申請につながるよう事業を推進につとめる。さらに教員の全校体制深化のため、研修やマニュアル等の充実をはかる。

学校関係者評価

実施日　令和５年３月２２日

評価と意見
・人間関係での問題行動が心理的なことであれば、専門家の力を借りるのも一つの方法である。事故はケガをしてもさせても心身に与える影響が大きいので、通学手段が同じ生徒同士で約束事を決める、またはお互いを確認するということなども、未然防止策として、自主的でよいのではないか。 ・教員による指導だけでなく、生徒が身につけるべき規範や安全について考え、議論し、提言するような活動もあるとよい。 ・注意を促しても交通事故が多いということは、生徒の意識と行動が結びついていないことが考えられるので、原因をよく分析して、生徒の視点で具体的な改善計画を立てる必要があるのではないか。 ・自転車事故の発生件数は減っていない。ヒヤリハット事例もかなり多いと思う。事故の悲惨さや高額な賠償責任を負う事実等を、生徒の身近なこととして捉えさせたい。その際、映像を使った研修などを行ってはどうか。
・たくさんの制限・制約のある中で、出来る方法を考えた先生方に敬意を表する。 ・修学旅行の実施や伝統的行事の実施は、できなかったことが多かった卒業生にとって大変良かった。これからマスク着用が緩和されるが、引き続き注意しながら、形を変えながらでも可能な限り実施されることを望む。 ・名物行事が実施できたことをまずは高く評価したい。今後も知恵と工夫によって行事が継続されることを期待する。 ・８５キロ強歩の復活には、学校と PTA の連携が不可欠。早急な準備体制の構築を願う。 ・８５キロ強歩を行うにあたり、生徒へこの事業の趣旨をしっかりと理解させ、PTA（保護等）に対して過保護にならないような指導も必要である。
・観点別学習状況の評価が実施される中、先生方の熱心な御指導はすばらしい。 ・（肯定意見ではない）約２割の生徒の学習意欲向上のために、原因を突き止めながら様々な方法や工夫での指導を願う。 ・生徒による授業評価を実施し、その結果を示して授業改善を図り、その結果を生徒に評価してもらう PDCA サイクルを導入するとよい。
・様々な個性の生徒に対し、適切な指導助言がなされている。 ・面談満足度が大変高く、学校全体で取り組まれているのが良くわかる。進路においての悩みや不安は各々異なると思うが、保護者の理解と協力が必要不可欠なことから、家庭の様子も把握しながら継続して指導してほしい。 ・生徒の面接満足度 98.3%は実に素晴らしい。
・生徒の自主性を尊重した多様な研究、先行事例を深める継続的研究など、今後がますます楽しみである。 ・生徒が、文系・理系各々の特性に合った課題研究プログラムの内容で研究に取り組んでいるのが大変よく分かる。更なる内容発展を期待する。 ・発表会を Zoom で見た。よく研究してきたと思った。 ・地元企業との連携を広げることで、地域課題を科学する心を育てたい。 ・大学や地元企業等の連携は非常に良い取組である。更なる発展を願う。
・教員の負担は大きいと思うが、折角の機会なのでいかしてほしい。 ・Ⅱ期目も期待する。 ・取り上げるテーマの社会的な意義について、よく議論することから始めることが大切である。 ・SSH 事業はとても良い事業だと思う。是非ともⅡ期目に向けて尽力してほしい。